

Ⅶ 政策情報学部

政策情報学部の学び

普段から、私達はたくさんの「物」や「情報」「サービス」(以下では、単に「もの」と呼ぶことにします)に囲まれており、その中から自分の好みや都合にあうものを選んで生活しています。ここで、それらの「もの」に満足できず、自分の手で新しく作り出す必要が生じた場面を想像してみましょう。あなたは、そもそもそれが何から、どのように作られるのかを知っていますか?もし知っていたとしても、今の自分の力だけでは作ることができないということに気がつくのではないのでしょうか。ここであきらめてしまっただけではいけません。一見、新しそうに見える「もの」であっても、もともとある「もの」「人」「技術」そしていくらかの「オリジナリティ」をつなぎ合わせて作られていることが多いのです。

何かと何かを「つなぐ」ためには、つながれる「もの」自体やそれらのつなぎ方を知らなければなりません。政策情報学部では多種多様な科目を用意しています。ここで、科目の履修で得られる知識や技術を「もの」であるとする、コースとはそれらをつなぐ上での典型的な順序に相当します。本学部の「地域政策コース」では地域の公共サービスやコミュニティの作り方を、「メディア情報コース」では「もの」をつなぐ道具としてのメディアを使いこなす知識や技術、感性を身につけます。みなさんは、それぞれの目的に合わせたコース選択をしてください。科目群に配当されている科目を適切な順序で履修することで、より効果的な学修が可能になります。

学んだ知識を活かせる職業につくことはとても大切です。政策情報学部では「公務員試験対策」を始めとする就職支援や「IT パスポート」、「基本情報技術者」、「eco 検定」などさまざまな資格の取得支援を行っています。課外授業であっても積極的に参加し、なりたい自分に近づいていけるよう努力してください。

「入門ゼミ」「ゼミナール」「卒業研究」では、それまでに学んだ知識や技術、メディアを活用して新しい価値を持った「もの」を創出していきます。活動のフィールドは学内に限りません。ある時は街に出て、ある時には情報技術を活用したインターネット空間でのアクティブな学びを通じて、実践的な知を身につけていきます。

大きな目的を達成するためにはしっかりとした計画が重要です。履修ガイドをよく読み、着実な履修計画を立てるよう心がけてください。

私たち政策情報学部のスタッフは、皆さんの大学生活を全力でサポートしていきます。

政策情報学部長 大矢野 潤

政策情報学部

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

政策情報学部では、実社会の現場において、様々な問題や個別課題の解決に対して幅広い視点に立ちながら、判断、行動できる人物及び、そのための創造的な活動に貢献できる人物を育成することを目的とし、以下の知識、技術、思考力、実践力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

高い倫理観

- ◆情報の収集・分析・活用を通じ社会の諸課題を発見し解決する上で求められる、社会の規範を遵守し、判断、行動する意識と強い責任感。
 - 必修科目「政策情報学概論」の学修を通じて評価する。

専門的な知識・技能

- ◆地域社会を下支えし、実情に対応しつつ、しなやかに変革していくための専門的な知識・技能および多様な専門家たちと協力して自らの責任を果たすことのできる専門能力。
 - 専門科目群の所定の単位を修得することにより評価する。

幅広い教養

- ◆幅広い視野を持って、他者とコミュニケーションをとることができ、他者を理解し、判断、行動することができるに足る、幅広く十分な教養。
 - 教養科目群の所定の単位を修得することにより評価する。

また、上記の要素を基にし、自らが主体となって、積極的に創造的な活動に貢献できる能力の育成を行い、必修科目「卒業研究」の修得により評価する。
政策情報学部では、上記の力を身に付けるためのカリキュラムを編成・実施する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

政策情報学部では、複数の専門領域の協調によって初めて生みだされる知の形、行動の形を探究し、様々な問題や個別課題の解決が必要な社会の現場において、責任感としなやかさをもって思考、行動することで創造的な成果を生む人物の育成を教育目標とする。この教育目標を実現するために、全学部共通カリキュラムであるCUC基盤教育科目群の科目を通じて本学の学生として基盤となる知識の獲得と能力の醸成を行うとともに、多様な専門知を持つ教員との触れ合いを重視し、少人数教育を活かして、学生と教員が一体化して課題解決策の実現を図る次のような教育課程を編成する。

初年次教育

初年次教育は、大学の学修への円滑な導入を目的とする。専門的なゼミナールへの導入としての「入門ゼミ」、倫理観の育成と政策情報学への導入を目的とした「政策情報学概論」を実施する。これらの科目の履修を通じ、自ら学修計画を立て、2年次でのコース・ゼミナール選択を行う上で必要な基礎知識や技能を育成する。特に「入門ゼミ」では、情報の収集、整理の仕方、プレゼンテーションの仕方、対人関係の向上、社会人としてのコミュニケーション能力などを修得できるよう、少人数のゼミナール教育を実施する。具体的には、調査・研究・プレゼンテーションを実践し、能動的な問題発見・解決能力の向上を図る。

専門教育

2年次以降に、「地域政策コース」、「メディア情報コース」のいずれかに所属し、主として「コース専門科目」を学ぶことで、自らが求める専門知識を修得できるように、演習または講義形式にて実施する。「地域政策コース」では、主として「行政」、「環境」、「まちづくり」、「ビジネス」を学びの分野とする。これらの分野の講義、演習を通じ、安心して快適な街づくり、人の暮らしを支えるビジネス、環境問題など、さまざまな視点から街づくりやビジネス戦略について学修し、より良い地域社会の実現に役立つ知識、技能を育成する。「メディア情報コース」では、主として「IT」、「アート」、「メディア」、「文化」を学びの分野とする。これらの分野の講義、演習を通じ、ITを駆使した利便性の高い社会の実現、映像やアニメなどの表現による新しい文化の創造など、社会をより豊かにするための知識、技能を育成する。また、他コースの専門科目の履修を可能とすることで、幅広い視点に立ちながら専門を深める教育を実施する。

ゼミナール教育

1年次においては「入門ゼミ」、2～4年次においては「ゼミナール」として、学生が主体となって研究・活動する少人数によるゼミナール教育を実施する。ゼミナール教育では、多角的な視点から思考し、討論し、行動するための、基礎から実践能力までを鍛える場を提供する。また、4年次のゼミナールでは、大学4年間の集大成となる卒業研究（卒業論文または卒業制作）を必須とする。

政策情報学部では、「知識・技術の修得度」、「創造的な活動」を評価する。「知識・技術の修得度」は試験・レポートなどにより到達度を評価し、「創造的な活動」はゼミナールや卒業研究を通じて評価する。加えて、急速に変化する社会環境と問題に対応するために、専任教員と学生が一体となって課題解決に取り組むことを目的とした、プロジェクト連動型の教育を実施する。また、キャリア教育の延長として、専任教員による各種資格取得、公務員試験合格のための課外サポートを実施する。

I 教育課程

(1) 科目の区分

政策情報学部 2020 年度入学生の科目区分は、「CUC 基盤教育科目群」、「専門科目群」、「セミナー科目群」「単位互換科目」「自由科目」から構成されています。

(2) 科目の概要

【CUC 基盤教育科目群】

詳細は、V. 基盤教育機構を参照してください。

ア 情報

情報基礎は、さまざまな「情報に関する活動」の基礎となる力を身につける科目です。それは、単に「コンピュータの使い方を身につける」ということではありません。今後、いろいろな問題や企画に取り組むときに、自ら調べ、考えることを通じて、解決・実現していく力の基礎を、実践的に身につけることを目指します。

イ 外国語

選択必修科目の外国語については、1年生は、英語と中国語のいずれかを選択しなければなりません。

選択必修科目の外国語は、同じ語種の授業が週に2クラスの異なる内容で開講され、選択した語種の授業を春学期と秋学期に受講します。

なお、外国人留学生は、母国語の科目は選択できません。

【専門科目群】

ア コース共通科目

コース共通科目は、所属コースに係わりなく、各年次に履修することが望ましい専門科目で、必修科目は、1年次配当の「政策情報学概論」があります。必修科目も専門科目の単位には含まれますが、所属コース内科目の単位には含まれません。

イ コース専門科目

2年次より、「地域政策コース」または「メディア情報コース」のいずれか1つのコースを選択し、所属することになります。所属コースの専門科目を40単位以上修得しなければなりません。

なお、所属するコース以外の専門科目を履修した場合、修得した単位は選択科目の単位に充当されます。

【セミナー科目群】

1年次の入門ゼミで、大学で学ぶ意義からデータ収集・分析の手法、グループワークによる問題発見・解決策の提案、プレゼンテーションの方法等を学ぶと、2年次からゼミナールを履修することになります。3年次は、4年次の「卒業研究」を前提としているため、変更しないことが原則です。春・秋学期、同じゼミナールに所属することで、4年次「卒

業研究」のテーマにつなげていきます。

ア 入門ゼミ

「入門ゼミⅠ・Ⅱ」は、「政策情報学概論」や「情報入門」とともに、政策情報学部で学ぶための導入となる科目で1年次の必修科目です。1クラス25名程度の編成で、共通のテキストをもとに一定の履修プログラムで情報の収集、整理の仕方、発表の仕方、対人関係の向上、社会人としてのマナーなどを学修していきます。

1年間の入門ゼミを通じて、自分の興味や関心のあるものを事例として取り上げ、グループワークにより問題発見・解決策の提案をできるようになります。

イ ゼミナール

ゼミナールとは、専任教員が学期ごとに研究テーマを設け、そのテーマにそって学生が主体的に研究活動を行う授業科目です。卒業するための必修科目で、2年次生を対象とした「ゼミナール1」、3年次生を対象とした「ゼミナール2」、4年次生を対象とした「卒業研究」に分かれています。2年次は、セメスターごとのゼミナール（担当教員）の変更が可能です。

ウ 卒業研究

卒業研究とは、大学4年間を通じ、ゼミナールなどで学んだ研究の成果を、卒業論文や制作物など形あるものにして発表する授業科目です。大学4年間で「自分はこんな専門分野を勉強し、修得した」と自信をもって対外的に答えられる研究論文や作品を仕上げることを目標にしてください。卒業論文や制作物などの指導にあたる教員は、4年次ゼミナールの担当教員です。

卒業研究はゼミナールⅠ、Ⅱの単位を修得済みであり、かつ総修得単位数が76単位以上であることが履修要件となります。

【単位互換科目】

大学間協定に基づいて、千葉商科大学以外の他大学で授業を履修し、修得した単位を卒業単位として認定するものです。他大学での授業履修を希望の学生は、教務課へ相談してください。

【自由科目】

自由科目とは、単位を修得しても卒業に必要な単位にならない科目です。

政策情報学部では、ゼミナールを1セメスターに2つ履修する場合、2つめが自由科目扱いとなります。

(3) 授業科目配当表

原則として、履修できる科目は授業科目配当表に記載のある科目となります。（単位互換科目、自由科目、特別講義を除く）授業科目配当表に記載のない科目の単位修得をしても卒業要件には含まない場合があります。入学年度ごとにカリキュラムが異なりますので、履修登録の際には注意してください。詳しくは、授業科目配当表を確認してください。

(4) 資格取得単位認定

ア. 外国語科目の「英語(A) I・II」、「英語(B) I・II」の再履修者のうち、次の資格を取得している場合、単位認定をすることができます。

- ・ 実用英語検定2級：2科目
- ・ 実用英語検定準2級：1科目

イ. 情報科目の「ICT基礎」は、次の資格を取得している場合、単位認定をすることができます。

- ・ ITパスポート

(5) コース制

政策情報学部2020年度入学生は、「地域政策コース」または「メディア情報コース」のいずれかを選択し、コース登録を行い、2年次より自分の所属するコースの専門科目を中心に授業を履修していきます。コースの登録は、第2セメスター(第1年次秋学期)に行います。その時期にコース登録を行わないと2年次春学期以降、その他の科目の履修登録も受け付けられません。

また、コースの変更を希望する場合には、2年次の秋学期に一度だけコース変更をすることができます。

なお、コース登録・変更についての詳細は、告示等でお知らせします。

【地域政策コース】

「地域政策コース」では、安心して快適な街をつくる人、ビジネスで人の暮らしを支える人、環境問題に取り組む人など、さまざまな視点から街づくりやビジネス戦略について学び、より良い地域社会の実現を目指します。

「地域政策コース」で学べる主な内容は次のとおりです。

- ・ 行政：国や地方自治体の仕組みを理解し、それぞれの役割や現場が抱える課題、関連する法律などについて学びます。
- ・ まちづくり：身近な地域の成り立ちやコミュニティを知り、まちに賑わいを取り戻すためのアイデアや実践の方法を学びます。
- ・ 環境：エネルギー問題や国内外の環境政策など、環境について幅広く学び、地球環境のために行動できる力を育てます。
- ・ ビジネス：現代社会を支える経済の仕組みを学び、金融やマーケティングなどビジネス社会に必要な知識を身につけます。

《将来の進路》

公務員(地方公務員/警察官/消防官)、独立行政法人・公益法人、金融機関・証券会社(証券アナリスト)、一般企業、環境関連企業・団体、大学院 など。

《取得をめざせる資格》

ビジネス実務法務検定、法学検定、宅地建物取引主任者、日商簿記、秘書技能検定、ファイナンシャル・プランニング技能検定、eco検定 ほか

【メディア情報コース】

「メディア情報コース」では、IT を駆使して便利な社会を実現したり、映像やアニメなどの表現で新しい文化を生み出すなど、情報やメディアを通してさまざまな表現技法を追求し、より豊かな社会に貢献できる人材となることを目指します。

「メディア情報コース」で学べる主な内容は次のとおりです。

- ・IT：プログラミング言語やHTML を学んで、世の中を便利にするアプリやゲーム、Web サイトづくりを学びます。
- ・メディア：最新のスタジオ設備を活用し、実際にテレビ番組を学生の手で企画・制作。情報を発信する方法を学びます。
- ・アート：イラストやCGアニメ、音楽や演劇など、好きな分野の表現を追究し、人を楽しませる作品づくりを行います。
- ・文化：英語圏や中国語圏の海外文化や、ファッション・デザイン・マンガといった現代カルチャーなどについて研究します。

《将来の進路》

映像・サウンドクリエイター、イベントプロデューサー、データサイエンティスト、システムエンジニア、プログラマー、Web デザイナー、広告・出版、ゲーム制作、アニメ制作、大学院など。

《取得をめざせる資格》

CGクリエイター検定、Web デザイナー検定、マルチメディア検定、マイクロソフトオフィススペシャリスト、ITパスポート、日商簿記 ほか。

コース配当科目（2019年度生以降入学者）※単位修得条件：下記専門科目 40 単位以上

コース	地域政策	メディア情報		
コース専門科目	行政実務入門	行政学	映像基礎	サウンドデザイン
	憲法特論	地方財政論	画像表現基礎	映像プロデュース論(A)
	法学基礎	政治学特論	デザイン基礎	映像プロデュース論(B)
	日本史特論	マクロ経済学	デッサン基礎	ネットワークシステム管理
	世界史特論	ミクロ経済学	音楽基礎	インターフェイス設計論
	経済学特論	経営学	マルチメディア表現基礎	プロデュース・演出論
	行政実務（社会）	日本経済論	制作基礎	プログラミング(A) I
	行政実務（人文）	政策プロセス論	統計学	プログラミング(A) II
	行政実務（自然）	地域経済論	記号と社会	プログラミング(B) I
	数的処理 I	地域政策論	データ解析法	プログラミング(B) II
	数的処理 II	経営戦略論	言語思想論	データベース設計論
	数的処理応用 I	マーケティング論	批評理論	情報処理技術(ハードウェア)
	数的処理応用 II	政策情報学演習	東アジア地域研究 I	情報処理技術(ソフトウェア)
	行政文章	医療と地域社会	東アジア地域研究 II	表現メディア論
	行政文章応用	都市計画入門	色彩学	ソフトウェア工学
	行政実務（英語）	地域文化政策論	情報文献検索	シナリオ・ライティング
	行政実務応用(社会) I	都市政策・計画論	身体表現	Webデザイン
	行政実務応用(社会) II	環境学入門	創作と芸術	アニメーション表現
	行政実務応用(人文) I	コミュニティ形成論	パフォーミング・アーツ(A)	企画・制作実習 I
	行政実務応用(人文) II	非営利組織論	パフォーミング・アーツ(B)	企画・制作実習 II
	行政実務応用(自然) I	地域環境マネジメント	現代芸術	3次元CG表現 I
	行政実務応用(自然) II	環境アセスメント	インテリアデザイン	3次元CG表現 II
	行政法	環境社会学	文学表現	デッサン技法 I
	刑法	環境政策論	画像表現	デッサン技法 II
	民法	合意形成論	映像論	写真技法
	法学各論	コミュニティ政策論	映像表現	VRコンテンツ制作
	行政文章特論	公共政策論	作曲法	モデル・シミュレーション
	政策事情特論	地域分析論	映像音響表現論	
	社会学特論		MIDI表現	

2 履修登録

履修登録については、【Ⅱ. 大学における学修】「8.履修」の項を確認のうえ、各自行ってください。なお、学部により履修制度が異なりますので、以下の注意事項を確認のうえ、不明点がある場合には、教務課へ相談してください。

(1) 事前履修登録科目

事前履修登録科目とは、学期指定の必修科目を指し、教務課によって履修登録を行います。CUC PORTAL 上の時間割表に自動で登録されるので、自身で履修登録を行う必要はありません。

なお、対象科目は、以下の「事前履修登録科目」の通りです。但し、事前履修登録科目の単位を修得することができず、再履修をする場合は、自身で履修登録を行う必要がありますので、注意してください。

「事前履修登録科目」

選択必修語学（英語、中国語）、入門ゼミ、情報入門、政策情報学概論、政策情報実務、ゼミナール、卒業研究

(2) 履修クラスに指定のある科目

ゼミ、語学などに科目においては受講クラスが指定となる科目があります。対象科目は以下の「受講クラス指定科目」の通りです。なお、受講クラスは CUC PORTAL 学生時間割表にて確認してください。

「受講クラス指定科目」

選択必修語学（英語、中国語）、入門ゼミ、ゼミナール、卒業研究

(3) ステップアップ科目

ステップアップ科目とは当該科目の履修にあたり、指定科目の単位修得等の条件があるものです。対象科目は下表の通りです。

「ステップアップ科目」

条件：Aの科目を履修するにはBの科目を修得済となっていること。

A	B
プログラミング（B）Ⅱ	プログラミング（B）Ⅰ
東アジア地域研究Ⅱ	東アジア地域研究Ⅰ
3次元CG表現Ⅰ	画像表現基礎
3次元CG表現Ⅱ	画像表現基礎
画像表現	画像表現基礎

(4) 履修上限外科目

各学期の履修条件は原則 22 単位と定められていますが、指定した科目に限り、履修上限を超

えて履修をすることが認められます。科目配当されている科目中の対象科目は以下の「履修上限外科目」の通りです。ただし、全学部、所属学部を対象とした特別講義など、履修上限外科目は年度により追加、変更となる可能性があります。

「履修上限外科目」

体育科目、卒業研究科目、特別講義、自由科目

(5) その他

「体育学実習」は単位修得した順にⅠ、Ⅱと成績評価がされます。2回目の履修登録をする場合、一度修得した種目は選択できませんので注意してください。

3 学部の特徴ある教育

(1) 公務員になるために学ぶ

政策情報学部では、将来、公務員をめざす学生のために、1年次の秋学期から3年次の秋学期までに必要な知識を段階的に学べる正課授業のカリキュラムを用意しています。

これらのカリキュラムは、地域政策コースでは、コース専門科目として位置づけて科目を配置していますが、メディア情報コースの学生も一般企業等への就職のために活用することができます。

また、さらに本格的な課外講座による演習などによって正課授業との相乗効果で、徹底的に公務員試験対策をサポートします。

《公務員試験対策の正課授業》

公務員試験に必要な幅広い知識を段階的に習得できる科目を設定しており、卒業単位としても認定されます。

《公務員試験対策の課外講座》

正課授業の内容について、資格試験予備校と連携した本格的な試験対策を実施します。なお、課外講座は、大学に納入している授業料とは別に受講する学生の実費負担になります。(年間約1万円程度)

※各授業講座については、学期はじめに配付する冊子を確認してください。

公務員試験対策講座の授業内容

年次	正課授業（単位）		課外講座
1年	行政実務(社会) 行政実務(人文) 行政実務(自然)	行政実務入門	数学の基礎演習 国語の基礎演習 模擬試験
2年		行政文章特論 政策事情特論	行政実務(英語) 数的処理Ⅰ 数的処理Ⅱ 数的処理応用Ⅰ 数的処理応用Ⅱ
3年			数的処理の演習 文章理解の演習 社会科学の演習 人文社会の演習 自然科学の演習 マクロ経済学演習 ミクロ経済学演習 財政学演習 民法演習 模擬試験 論文対策
4年			公務員試験の面接対策などを教員がサポート

※メディア情報コースの学生も履修できます。

4 授業科目配当 (2020 年度入学者適用)

区 分		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次		
		科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)		
CUC 基盤教育科目群	共通教養科目	選択	人文科学 アジアの歴史(2) アメリカの文学と文化(2) イギリスの文学と文化(2) イスラーム・アラブ文化論(2) 演劇(2) 音楽史(2) カウンセリング心理学(2) 教育学(2)	近代日本文学(2) 実学への招待(2) 言語学(2) 現代中国の思想(2) 古典日本文学(2) 社会思想史(2) 宗教学(2) 心理学入門(2)	性格心理学(2) 世界の文学(2) 哲学(2) 日本史(2) 日本の文化(2) 東アジア文化論(2) 美術史(2) Film Studies(2)	ヨーロッパの歴史(2) 倫理学(2) 歴史学入門(2) 論理学(2) 海外短期文化研修Ⅰ(2) 海外短期文化研修Ⅱ(2) 海外長期文化研修(2)	
			社会科学	観光文化論(2) グローバル・アジア論(2) Global Studies (2) 経済と社会(2) 現代社会と宗教(2) 日本国憲法(2)	国際関係論(2) ジェンダー論(2) 質的調査法(2) 社会学(2) 社会調査法(2) 社会ネットワーク論(2)	商業と倫理(2) 生活環境論(2) 政治学入門(2) 世界の紛争と平和(2) 地理学と社会(2) 日本現代社会論(2)	日本政治史(2) 福祉論(2) 文化人類学(2) 法学(2) 民俗学(2)
			自然科学	宇宙科学(2) エネルギー論(2) 化学(2) 科学技術史(2) 数と計算(2)	環境と倫理(2) 健康科学(2) コーチング論(2) 自然科学入門(2) 自然地理(2)	情報と倫理(2) 数学(2) スポーツ科学(2) 生物学入門(2) 生物と機能(2)	生命と倫理(2) 地球科学(2) 地球環境論(2) 統計学入門(2) 物理学(2)
	外国語科目	選択必修	英語(A)Ⅰ(2) 英語(B)Ⅰ(2) 英語(A)Ⅱ(2) 英語(B)Ⅱ(2) 中国語(A)Ⅰ(2) 中国語(B)Ⅰ(2) 中国語(A)Ⅱ(2) 中国語(B)Ⅱ(2)				
		選択	基礎英語Ⅰ(2) 基礎英語Ⅱ(2) スポーツ英語(2) ビジネス英語Ⅰ(2) ビジネス英語Ⅱ(2) ビジネス英語Ⅲ(2) 中級英語Ⅰ(2) 中級英語Ⅱ(2) 中級英語Ⅲ(2) プレゼンテーション英語(2) ドイツ語(A)Ⅰ(2) ドイツ語(B)Ⅰ(2) ドイツ語(C)Ⅰ(2)	ドイツ語(A)Ⅱ(2) ドイツ語(B)Ⅱ(2) ドイツ語(C)Ⅱ(2) ドイツ語Ⅰ(2) ドイツ語Ⅱ(2) ドイツ語Ⅲ(2) ドイツ語Ⅳ(2) フランス語(A)Ⅰ(2) フランス語(B)Ⅰ(2) フランス語(C)Ⅰ(2) フランス語(A)Ⅱ(2) フランス語(B)Ⅱ(2) フランス語(C)Ⅱ(2)	フランス語Ⅰ(2) フランス語Ⅱ(2) フランス語Ⅲ(2) フランス語Ⅳ(2) 基礎中国語会話Ⅰ(2) 基礎中国語会話Ⅱ(2) 基礎中国語文法Ⅰ(2) 基礎中国語文法Ⅱ(2) 中級中国語Ⅰ(2) 中級中国語Ⅱ(2) 上級中国語Ⅰ(2) 上級中国語Ⅱ(2)	スペイン語Ⅰ(2) スペイン語Ⅱ(2) スペイン語Ⅲ(2) スペイン語Ⅳ(2) 韓国語Ⅰ(2) 韓国語Ⅱ(2) 韓国語Ⅲ(2) 韓国語Ⅳ(2)	
	情報科目	必修	情報入門(2)				
		選択	情報実践(2)	ICT 基礎(2)	Web 基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
	簿記会計科目	選択	会計学への扉(2) 簿記特講(4)	税理実務研究Ⅰ(2) 税理実務研究Ⅱ(2)	経理実務入門Ⅰ(2) 経理実務入門Ⅱ(2)		
	体育科目	選択	基礎体育学実習(1) 体育学実習Ⅰ(1) 体育学実習Ⅱ(1)				
	キャリア科目	選択	キャリアデザイン(2) 雇用と労働の法律(2)	企業研究(2) 職業・業界研究(2)	ビジネス探究(2) ホスピタリティ実践(2)	マナー・ディスカッション(2)	
				インターンシップ(2) 就業力実践(2)			
日本語関連科目	選択	文章表現(2) *日本語読解Ⅰ(2) *日本語読解Ⅱ(2) *日本語読解Ⅲ(2)	*日本語聴解Ⅰ(2) *日本語聴解Ⅱ(2) *日本語聴解Ⅲ(2)				

(注) 1. 海外短期文化研修Ⅰ、Ⅱ、海外長期文化研修は、協定校に語学研修または交換留学した者が履修できる科目とします。
2. *印の日本語読解Ⅰ～Ⅲ・日本語聴解Ⅰ～Ⅲは留学生のみの配当とします。

区 分		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次			
		科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)			
専 門 科 目 群	コ ー ス 共 通	必修	政策情報学概論(2)					
		選択	政策情報実務(2)					
	地 域 政 策 コ ー ス 科 目	選 択		行政実務入門(2)				
				憲法特論(2) 経済学特論(2)	法学基礎(2)	日本史特論(2)	世界史特論(2)	
				行政実務(社会)(2) 行政実務(人文)(2) 行政実務(自然)(2)				
					数的処理Ⅰ(2) 数的処理Ⅱ(2) 行政文章(2) 行政実務(英語)(2) 行政実務応用(社会)Ⅰ(2) 行政実務応用(社会)Ⅱ(2) 行政実務応用(人文)Ⅰ(2)	数的処理応用Ⅰ(2) 数的処理応用Ⅱ(2) 行政文章応用(2) 行政実務応用(人文)Ⅱ(2) 行政実務応用(自然)Ⅰ(2) 行政実務応用(自然)Ⅱ(2)		
					行政法(2) 行政文章特論(2) 地方財政論(2) 経営学 地域政策論(2) 医療と地域社会(2) 環境学入門(2) 環境アセスメント(2) コミュニティ政策論(2)	刑法(2) 政策事情特論(2) 政治学特論(2) 日本経済論(2) 経営戦略論(2) 都市計画入門(2) コミュニティ形成論(2) 環境社会学(2) 公共政策論(2)	民法(2) 社会学特論(2) マクロ経済学(2) 政策プロセス論(2) マーケティング論(2) 地域文化政策論(2) 非営利組織論(2) 環境政策論(2) 地域分析論(2)	法学各論(2) 行政学(2) ミクロ経済学(2) 地域経済論(2) 政策情報学演習(2) 都市政策・計画論(2) 地域環境マネジメント(2) 合意形成論(2)
					映像基礎(2) 音楽基礎(2) 記号と社会(2)	画像表現基礎(2) マルチメディア表現基礎(2)	デザイン基礎(2) 制作基礎(2)	デッサン基礎(2) 統計学(2)
						データ解析法(2) 東アジア地域研究Ⅰ(2) 情報文献検索(2) パフォーマンス・アーツ(A)(2) エディトリアルデザイン(2) 映像論(2) 映像音響表現論(2) 映像プロデュース論(A)(2) インターフェイス設計論(2) プログラミング(A)Ⅱ(2) データベース設計論(2) 表現メディア論(2) Webデザイン(2) 企画・制作実習Ⅱ(2) デッサン技法Ⅰ(2) VRコンテンツ制作(2)	言語思想論(2) 東アジア地域研究Ⅱ(2) 身体表現(2) パフォーマンス・アーツ(B)(2) 文学表現(2) 映像表現(2) MIDI表現(2) 映像プロデュース論(B)(2) プロデュース・演出論(2) プログラミング(B)Ⅰ(2) 情報処理技術(ハードウェア)(2) ソフトウェア工学(2) アニメーション表現(2) 3次元CG表現Ⅰ(2) デッサン技法Ⅱ(2) モデル・シミュレーション(2)	批評理論(2) 色彩学(2) 創作と芸術(2) 現代芸術(2) 画像表現(2) 作曲法(2) サウンドデザイン(2) ネットワークシステム管理(2) プログラミング(A)Ⅰ(2) プログラミング(B)Ⅱ(2) 情報処理技術(ソフトウェア)(2) シナリオ・ライティング(2) 企画・制作実習Ⅰ(2) 3次元CG表現Ⅱ(2) 写真技法(2)
			ゼミナール科目群	必修	入門ゼミⅠ(2) 入門ゼミⅡ(2)	ゼミナールⅠ(2) ゼミナールⅡ(2)	ゼミナールⅢ(2) ゼミナールⅣ(2)	卒業研究Ⅰ(2) 卒業研究Ⅱ(2)

(注) 1. 専門科目群のコース専門科目は、所属コース以外のコース科目も履修することができます。その場合、卒業要件単位は選択科目に充当されます

2. 上記科目以外に「特別講義」として開講する科目がありますので、告示に注意してください。

